

## 第1号議案： 2018年度 活動報告

2018年度（2018年4月1日 - 2019年3月31日）

### 活動要旨

2018年度の活動は以下5点の重点目標を主軸に活動を実施。

1. 国際的ネットワーク形成と維持発展
2. 学術の進展による社会貢献
3. 人材育成による社会貢献
4. 機能的組織運営
5. 組織運営の仕組み構築

各活動における成果を下記にまとめる。

### 1. 国際的ネットワーク形成と維持発展

#### A) IPA Newsletters の定期配信

2018年度における IPA Newsletter の配信状況は以下の通り。（計4回）

Vol.3, No.2	June 2018	28 pages
Vol.3, No.3	September 2018	39 pages
Vol.3, No.4	December 2018	30 pages
Vol.4, No.1	March 2019	25 pages

IPA Newsletter は IPA 会員、圧入セミナー及び ICPE2018 の参加者や技術委員会のメンバーを含め全世界で 2,500 名に配信。2018 年度発刊の計 4 件の IPA Newsletters を集約した合冊版（第 2 版）を 2019 年 2 月に発刊。

#### B) 圧入セミナー・シンポジウム・国際会議などの定期開催

##### a. 圧入工学セミナー:

2018年度は、ICPE2018（概要は1. B), c参照）の開催に伴い、圧入工学セミナーは開催せず。2019年開催予定の圧入工学セミナーは、IPA全体の会議構成案をベースとして、開催趣旨と開催場所を含めての見直しによる開催を計画している。

##### b. 技術委員会主催シンポジウム:

2018年12月6日、マレーシアのUniversiti Tun Hussein Onn (UTHM) にて技術委員会 TC3（“PFS(Partial Floating Sheet-pile)工法の適用条件の拡大と地震時挙動評価”）主催のシンポジウム（議長：大谷理事）を開催。参加者は約100名。Newsletters Vol.4 Issue 1 に内容報告を掲載。

##### c. 圧入工学に関する国際会議（ICPE2018）:

2018年9月18－19日の2日間の日程で「第一回圧入工学に関する国際会議（ICPE2018）」を開催。エンジニア、実務者、研究者や学生など、17か国から総勢

418名が参加。特別招待者による基調講演、最新の研究報告、“i-Construction”や“オペレーター及び専門家の対話”の現状についての講演等、88編の論文に関する講演が実施された。2018年12月発刊のNewsletters Vol.3 Issue 4に特集記事を掲載。

また、表彰委員会によるIPA表彰の授賞式を実施。

- ・ ICPE優秀論文賞 “ICPE Best Paper Award” – 研究論文3件、施工事例論文3件
- ・ 多年にわたる貢献に対する顕彰 “Life-long Contribution Award” – 対象3件（4名）の2部門の受賞者を表彰。詳細は IPA Newsletterに掲載。

組織委員会の貢献により、ICPE2018は財務収支がバランスした開催となった。

## C) 各国の諸団体との定期交流によるネットワーク展開

### a. 南米

2018年11月23日から12月2日までの日程で、日下部会長、竹村理事及び詫摩氏の一行がブラジル・サンパウロ及びリオデジャネイロの2都市を訪問し、各地で圧入に関する講演を実施。

各都市での講演ツアーは元ブラジル地盤工学会会長のNiyama氏、現リオデジャネイロ連邦大学教授のM. Almeida氏、現地若手エンジニアの支援によるもの。まだ圧入施工の実績のない南米で、講演はブラジル地盤工学会サンパウロ事務局の会員、リオデジャネイロ連邦大学の教授・学生、南米大手鋼材メーカーのGERDAU社、サンパウロの建設協会のSindus Con社の役員などに対して行われ、の圧入技術普及に向けた。講演の内容報告はNewsletter Vol.4 Issue 1 に掲載。

### b. 中国

(a) 2018年10月18－19日に中国・杭州市で開催された国際会議、“International Conference on Urban Infrastructure & Management (ICIM2018)”にIPA会長が招待され、「建設業界におけるICテクノロジーの活用」をテーマに講演を実施。

(b) 2018年12月7日に広州市で開催されたフォーラム、“Global Mayors’ Forum & 2018 Urban Innovation Conference and the 4th Edition of Guangzhou Award”で、「日本におけるICテクノロジーと交通」をテーマに講演を実施。

中国法人会員による紹介で2件の国際会議に招聘され、中国でのIPAネットワーク拡大に貢献。

### c. フィリピン

2018年10月25－26日にフィリピン・ケソン市のフィリピン大学ディリマン校で開催された“8th Regional Symposium on Infrastructure Development (RSID)”にIPA会長が出席。2018年5月21日に同国で開催した「海外圧入セミナー」（参加人数：計137名）において支援を受けた、フィリピン土木学会（PICE）、フィリピン地盤工学会（PSSMGE）、フィリピン大学ディリマン校も参画しており、その関係者との情報交換を行った。概要は 2., B), c, (b) 項参照。

### d. 日本

全国圧入協会（JPA）との合同技術委員会の設立のため、2018年度にJPAとの合同準備会議を3度にわたり開催。また、IPAとして、2019年度に技術的見地からの研究活動を推進するための技術委員会の組成を進めている。

## 2. 学術の進展による社会貢献

### A) 各種技術委員会による研究活動の推進

各技術委員会（TC）の活動状況

#### a. TC1: “硬質地盤への自立式鋼管杭擁壁の適用”

委員長: 竹村准教授（東京工業大学）／IPA 理事

委員: 18 名（14 団体） ※昨年度より 4 名の増員

活動: 2017 年度の活動経過報告書は IPA ウェブサイトに掲載予定。  
2018 年度の活動経過報告書は 2019 年度の初めに完成予定。

#### b. TC3: “PFS(Partial Floating Sheet-pile)工法の適用条件の拡大と地震時挙動評価”

委員長: 大谷教授（熊本大学）／IPA 理事

委員: 25 名（21 団体） ※昨年度より 1 名の増員

活動: 2017 年度の活動経過報告書は IPA ウェブサイトに掲載予定。  
2018 年度の活動経過報告書は 2019 年度の初めに完成予定。

#### c. TC4: “圧入された鋼矢板および回転切削圧入杭の鉛直支持力特性と施工管理方法に関する技術委員会”（仮題）

2019 年度の委員会設立に向け、2018 年 3 月 26 日に準備委員会を開催。内容については 2019 年度の活動計画に記載。

### B) 圧入工法の国際的普及

2018年度は技術専門書の発刊、圧入ハンドブックの多言語化及びセミナー開催の3つを主軸に活動を展開。

#### a. 技術専門書

(a) 『圧入工法設計施工指針 -2015年度版-』（日本語版）の改訂版策定の編集委員会を 2019年3月に設立、編集作業を開始。改訂版は2019年度に発刊予定。

(b) 2018年9月の第一回圧入工学に関する国際会議（ICPE2018）の開催に伴い、『第一回 圧入工学に関する国際会議“論文集”』を発刊。

#### b. 圧入ハンドブック（英語版）の多言語化

##### (a) “Press-in retaining structures: a handbook (Second edition)”

初版（2016 年度発刊）の改訂に関する基本方針について協議を実施。『圧入工法設計・施工指針 -2015 年度版-』（日本語版）の改訂を先行し、並行して英語版 Handbook の改訂を進め、2019 年度中の発刊を目標。

##### (b) 中国語版

清華大学の張建民教授の編集チーム監修により、英語版の圧入ハンドブック（2016 年初版）をベースに中国語版の策定を実施中。

2018 年 10 月に現地「中国建筑工業出版社」（CABP）と出版・販売契約を締結。2019 年 8 月の出版に向け、同出版社と清華大学の監修チームによる編集作業を継続中。

##### (c) フランス語版

英語版の Handbook（First edition-初版）の改訂後（2019 年度）、フランス語版の策

定を予定。

(d) その他の言語（ロシア語 他）

フランス語版と同様、英語版の Handbook（First edition-初版）改訂後に着手予定。

**c. 海外圧入セミナー**

(a) 2018年5月18日、タイ土木工学会（EIT）で「IPA 海外圧入セミナー in タイ」を開催（全8講演、参加者数：103名）。セミナーの内容報告は IPA ウェブサイト及び Newsletters Vol.3, Issue 2 に掲載。

(b) 2018年5月21日、国立フィリピン大学ディリマン校で「IPA 海外圧入セミナー in フィリピン」を開催（全8講演、参加者数：137名）。セミナーの内容報告は IPA ウェブサイト及び Newsletters Vol.3, Issue 3 に掲載。

(c) 2018年12月6日、交通運輸大学（ハノイ）で「IPA 海外圧入セミナー in ベトナム」を開催（全10講演、参加者数：227名）。セミナーの内容報告は IPA ウェブサイト及び Newsletters Vol.4, Issue 1 に掲載。

**d. 技術専門書**

(a) 圧入施工事例集 - Vol. 1

IPA研究委員会（Research Committee）が圧入施工事例を集積し、施工事例集として編集を進めている。初版（Vol. 1）は2019年6月の発刊を目標。

(b) 圧入技術入門書

IPA会員有志により、編集作業（文章、図表及び写真など）が進められており、外部の出版社による2019年度中の発刊に向けて編集作業を継続中。

**C) 図書館機能（IPA蔵書）**

2018年度内に約300冊の専門書（英語・日本語）や論文（英語）を購入・集積し、図書館機能システムを構築中。2019年6月から蔵書管理及び貸出しシステムの運用を開始予定。2019年度においても引き続き書籍や論文の集積を継続予定。

**3. 人材育成による社会貢献**

**A) 技術委員会（TC）活動への若手研究者・技術者の参画による継続的な研究及び教育活動**

総勢10名の若手研究者・技術者が各技術委員会（TC）にメンバーとして参画、解析や遠心力载荷試験、施工事例の研究等、研究活動を積極的に継続中。

**B) 圧入技術に関する各種技術書の策定、編集プロセスへの若手技術者・技術者の参画**

5名の若手研究者・技術者がIPA編集委員会のメンバーとして参画、IPA Newsletters、施工事例集、圧入指針・Handbookなどの策定・編集に積極的に参画。

**C) 世界各地域にまたがる若手技術者の育成とネットワーク形成**

ICPE 2018では13カ国からの論文提出あり。2018年度のICPEを国際的な会議として位置付けることとなった。また当年度は、タイ・フィリピン・ベトナムの3か国での圧入セミナーや、マレーシア・UTHMでの技術委員会主催のシンポジウム等、若手研究者や技術者の交流とネットワークの拡大を推進。

## D) 全国圧入協会（JPA）との協働による実効性のある研究活動

JPAとの合同技術研究の実現に向け、2018年度に2度の準備会合を実施。2019年度には合同技術研究に着手することで合意。

## 4. 機能的組織運営

適切な決議レベルと規則類の設定による機能的な運営

### A) IPA活動の更なる活性化とグローバル展開のための若手理事（Director）の登用と若手技術者の参画促進

- a. 2018年12月、IPA会長により指名委員会を設立、2019年度の理事・監事の候補者名簿を作成。
- b. 2018年9月から3名の若手職員がIPA事務局に配属、組織運営の活性化・効率化に向けた人材育成を継続中。

### B) IPAの海外地域拠点設立によるグローバル展開

更なるグローバル展開に向けた事務局の強化策として、東南アジア・ヨーロッパ・アメリカ・日本の4地域に事務局の海外拠点を設立することを決定、各地域拠点メンバーを選出。

### C) 経済的自立の実施

- a. 技術委員会： 他機関や団体からの助成や研究資金の獲得による運営を実施。
- b. セミナー： タイ、フィリピン、ベトナムのセミナーは協賛金を獲得して開催。
- c. ICPE： 日本土木学会、前田記念財団、鹿島学術振興財団、高知観光コンベンション協会の4団体からの助成金の獲得（ICPE2018実績）に加え、参加者からの登録料などで開催収支がバランスした開催となった。

## 5. 組織的運営体制

### A) 会員サービスの向上

- a. 会員サービス向上のため、IPAウェブサイトの機能を拡充。
  - (a) 全会員を対象とした、ウェブ総会への参加と議決機能（会員ページ）
  - (b) タイムリーな会員登録情報の更新（会員各自による情報のアップデート）
  - (c) 会議やセミナーへの参加申し込み、登録手続き、オンラインでの支払（クレジットカード）
  - (d) 書籍類や論文類のオンライン購入
- b. 各種専門書や論文等を取り揃えた図書館機能を整備、会員向けサービスとして2019年6月から書籍貸出しサービスを運用開始予定。（概要は 2. C）参照）

### B) 表彰制度の確立と実施

表彰委員会は、5部門のIPA表彰制度の案内を各会員に通知し表彰を公募。2018年9月に“ICPE Best Paper Award”（ICPE優秀論文表彰）及び“Life-long Contribution Award”（多年にわたる貢献に対する顕彰）の2部門の表彰をICPEにて実施。

“The Outstanding Project Award”（傑出した建設プロジェクトの表彰）、“Innovative Technology Award”（革新的な技術開発に対する表彰）及び“Distinguished Research Award”（顕著な研究成果の表彰）については、自薦、他薦を含め募集を実施。当該3部門は、2019年度に開催されるIPA主催のイベントで表彰する予定。

## 6. その他

### A) IPA総会

2018年6月6日～6月21日までの日程でIPA総会を開催、2018-2019年度の理事改選、2017年度の活動報告及び収支報告、2018年度の活動計画及び予算案を承認。

### B) IPA理事会

2018年9月18日にIPA理事会を開催。副会長の選任、常設委員会（5委員会）の各委員長の選任、そして2018年度の活動計画について協議。また、By-laws（付属定款）及びRegulations（運営規則）の修正箇所についても討議、数点のコメントを反映のうえ承認。

### C) 運営委員会（Steering Committee）

運営委員会は委員長、各常設委員会委員長及びIPA事務局長で構成されている。2018年度は2018年5月15日、12月13日、そして2019年3月25日の計3回開催。主として、常設委員会の運営、研究活動の状況報告、第一回ICPEに関する報告、そして2019年度IPA総会に向けた準備等の議案について協議。

### D) 常設委員会（Standing Committees）

IPA活動は研究委員会、表彰委員会、事業委員会、広報委員会、総務委員会の5つで構成する常設委員会によって運営されている。2018年9月18日のIPA理事会において、IPA会長によって推挙された委員長及び副委員長を承認。理事会以降、各委員会の委員長及び副委員長によって設定された活動計画に基づき、IPA会長と定期的に連絡を取り、活動の進捗状況を確認。

### E) 会員数

2019年3月末（2018年度末）時点での会員数

正会員： 619名 [ 昨年同期 609 (+10 増加) ]

法人会員： 54名 [ 昨年同期 48 (+6 増加) ]

## 第2号議案: 2018年度収支計算書

### 収支計算書 2018年度 (2018.4.1 - 2019.3.31)

(単位: 円)

項目	2018年度予算	2018年度実績	備考
<b>I 事業活動収支の部</b>			
<b>1 事業活動収入</b>			
① 会費収入			
個人正会員年会費	6,000,000	6,050,000	
法人会員年会費	7,000,000	7,739,500	
② 寄付金収入			
寄付金	16,000,000	16,000,000	
③ その他収入			
研究受託費	5,000,000	0	
雑収入	2,000,000	1,663,532	書籍販売 Handbook(英)、Newsletter合冊版等)
<b>事業活動収入計</b>	<b>36,000,000</b>	<b>31,453,032</b>	
<b>2 事業活動支出</b>			
① 事業費支出			
理事報酬	10,500,000	10,667,570	傷害保険等含む
第11回 2019年度圧入工学セミナー (準備活動)	200,000	0	*ICPE開催年は未開催
第1回国際圧入会議 (ICPE) 諸雑費	400,000	479,537	ICPE論文集購入費、交通費(事前準備)
第1回国際圧入会議 (ICPE) IPAからの補助金	1,000,000	0	収支バランスにより補助金なし
海外セミナー (英語版Handbook)	1,200,000	2,197,791	開催3か国(タイ・フィリピン・ベトナム)ノ開催準備(ブラジル)
圧入Handbook (英語版) 改訂編集費	3,500,000	1,393,752	多言語化翻訳・監修費用 (中国語)
圧入Handbook (英語版) 出版・印刷費	2,500,000	547,992	圧入Handbook英語版増刷費用
圧入工法設計施工指針 (日本語版) 改訂編集費	800,000	14,100	編集委員会活動費
理事会・運営委員会活動費	2,200,000	1,732,132	理事会(9月)、運営委員会4回/年
研究委員会・技術委員会 活動費	5,000,000	0	2017年度、委員会専用口座に2018年度分払込み済み
海外会員活動支援	300,000	0	
図書館機能	2,500,000	2,907,461	書籍購入及び図書管理用ソフトウェア購入費
その他活動費 (調査・他学会参加費等)	500,000	410,311	工法普及活動費(ブラジル)
② 管理費支出			
ウェブサイト構築費・管理費	3,200,000	3,256,920	ウェブサイト新規構築、システム保守費用等
会員証作成費用	50,000	0	
印刷代	3,200,000	1,099,192	Newsletters 2018 合冊版 (#2) 等
国内外送料	200,000	230,939	郵送料、宅急便代
通信費	150,000	118,281	電話代
賃借料	3,400,000	3,339,463	事務所家賃・コピー機等
IPC事務用品費	350,000	742,929	ノートパソコン、IPC増員に伴う備品購入等
支払手数料	2,800,000	2,722,490	税理士費用、銀行手数料、翻訳委託費等
③ その他費用			
雑費	200,000	308,714	表彰関係諸費用
予備費	200,000	426,682	事務局派遣職員費用
<b>事業活動支出計</b>	<b>44,350,000</b>	<b>32,596,256</b>	
<b>事業活動収支差額</b>	<b>(8,350,000)</b>	<b>(1,143,224)</b>	
<b>II 投資活動収支の部</b>			
<b>1 投資活動収入</b>			
固定資産売却収入			
定期預金払戻	0	0	
<b>投資活動収入計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>2 投資活動支出</b>			
固定資産取得支出			
定期預金取得	0	0	
<b>投資活動支出計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>投資活動収支差額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>III その他</b>			
営業外収益等	0	0	
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>10,493,608</b>	<b>10,493,608</b>	
<b>当期収支差額</b>	<b>(8,350,000)</b>	<b>(1,143,224)</b>	
<b>過年度繰越収支差額修正額</b>		<b>(2,931,654)</b>	過年度の会計処理の修正に伴う調整額。 ※注
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>2,143,608</b>	<b>6,418,730</b>	

注 : 過年度繰越収支差額調整額は、過去の会計処理が一部不適切であったことによる帳簿上の繰越金と現預金ベースの残高の差額を、実態に合わせて修正するものである。

備考: 参考資料として ICPE 2018 の収支計算書を添付。詳細は「【補足資料】収支計算書 - 第一回 圧入工学に関する国際会議 (ICPE 2018)」参照。

In our opinion, the above statement of accounts is presented fairly in all material respects.

監査の結果、重要な点において適正に表示しているものと認める。

Date: 22 May 2019,

Auditor **Albert Yeung** Digitally signed by Albert Yeung  
DN: cn=Albert Yeung, o, ou, email=albert-yeung@graduate.hku.hk, c=US  
Date: 2019.05.23 13:14:17 +08'00'  
\_\_\_\_\_  
Dr. Albert T. Yeung

Auditor   
\_\_\_\_\_  
Mr. Yoshihisa Fujisaki

**【補足資料】収支計算書 - 第一回 圧入工学に関する国際会議 (ICPE 2018)**  
**参加者総数: 418名 (計17か国)**

(単位: 円)

項 目	金額 (実績)	備 考
<b>1 収入の部</b>		
① 参加登録費	3,921,000	参加登録費, バンケット 会費
② 協賛金・寄付金	3,117,940	ブース出展費(14団体)、寄付金
③ 助成金	2,977,000	土木学会／前田記念財団／鹿島学術振興財団／ 高知県観光コンベンション協会(計4団体)
④ 雑収入	1,539,209	ICPE論文集、昼食販売等
<b>収入の部 計</b>	<b>11,555,149</b>	
<b>2 支出の部</b>		
① 印刷費・発送費	1,874,388	論文集、会議資料、ポスター等
② 準備会合費	245,616	組織委員会・部会(交通費、会場費等)
③ 国際会議費用	5,610,070	同時通訳費、展示ブース設営、交通費(シャトルバス)等 (必要資機材レンタル費用含む)
④ 食事関係費用	1,994,872	バンケット、ウェルカムレセプション、コーヒーブレイク、昼食等
⑤ 招待費用	658,472	旅費交通費／宿泊費(特別招待者・基調講演者)
⑥ 運営管理費	846,256	運営スタッフ・警備員、運営用備品等
⑦ 雑費	227,184	論文査読費、銀行手数料等
<b>支出の部 計</b>	<b>11,456,858</b>	
<b>収支差額</b>	<b>98,291</b>	剰余金は次回のICPE費用として繰越し

## 第3号議案: 2019年度活動計画

2019年度 (2019年4月1日 - 2020年3月31日)

### 活動要旨

2018年度に引き続き、2019年度においても以下の5項目に重点を置いた活動を推進する。

1. 国際ネットワーク形成と維持発展
2. 学術研究の進展による社会貢献
3. 人材育成による社会貢献
4. 機能的な組織運営
5. 組織運営の仕組み構築

2019年度の各活動計画の要旨を下記に示す。

### 1. 国際ネットワークの形成と維持発展

#### A) IPA Newsletters

2016年9月に創刊した"IPA Newsletters"は、各国からの寄稿により、四半期毎の定期的な刊行を着実に実行している。国際会議やセミナー、シンポジウムへの参加者への配信も加え、配信先は年々増加し、現在の配信先は2,500を超えている。

2019年に発刊する4編の"IPA Newsletters"を集約した第3号となる合冊版は、2020年2月に発刊する予定。

#### B) セミナー・シンポジウム・国際会議の継続的な開催

##### a. 圧入工学セミナー

2019年度の圧入工学セミナーは、IPA主催の会議・シンポジウムなどとの関連を考慮し、趣旨と開催場所を含めて見直し。次回は2019年9月に東京での開催を予定している。

##### b. 技術委員会 (TC) シンポジウム

技術委員会 (TC3-PFS工法) の主催による圧入シンポジウムを、2019年10月もしくは11月に、タイ・バンコクで開催予定。

##### c. 圧入工学に関する国際会議 (ICPE2021)

2021年に「第2回 圧入工学に関する国際会議」(ICPE2021)を開催予定。2019年7月に組織委員会を設立し、準備活動を開始する予定。

#### C) ネットワーク拡大に向けた他団体との継続的な交流

##### a. 南米 (ブラジル)

2018年度、IPA会長以下2名がブラジルを訪問し、ブラジル地盤工学会/大学/鉄鋼メーカー/大手建設会社に対して圧入に関する講演と情報交換を通じてネットワークを構築。2019年度に活動を開始予定の米国地域拠点を経由し、一層の継続的関係強化を図る。

## b. 中国

中国での圧入工学セミナーの開催などに向け、IPAの法人会員等の紹介によって2018年度にIPA会長が実施した2度の講演（杭州・広州）によって構築した、中国土木学会などとの更なるネットワークの強化と拡大を継続。

## c. 日本

研究委員会は2018年度に実施した全国圧入協会（JPA）との数回の準備会を開催、2019年度は合同技術委員会を正式発足させ、具体的活動を開始する。

## d. IPAネットワーク

各地域拠点（Regional Office）を經由してIPAのネットワーク拡大に向け、地域副会長及び地域担当会員による活動を促進する。各地域拠点（Regional Office）の役割については 4. B) を参照。

## 2. 学術研究の進展による社会貢献

### A) 技術委員会

#### a. 技術委員会 1（TC1）

テーマ：「硬質地盤への自立式鋼管杭擁壁の適用」

活動： 2017年より3か年計画の研究活動で、2019年は最終年度。  
2017年及び2018年度の活動経過報告書は研究委員会へ提出予定。

#### b. 技術委員会 3（TC3）

テーマ：「PFS工法の適用条件の拡大と地震時挙動評価」

活動： 2017年より3か年計画の研究活動で、2019年は最終年度。  
2017年及び2018年度の活動経過報告書は研究委員会へ提出予定。  
2019年10月もしくは11月、タイ・バンコクにてTC3主催のシンポジウムを開催予定。1. B), b. を参照。

#### c. 技術委員会（TC4）

テーマ：「圧入された鋼矢板および回転切削圧入杭の鉛直支持力特性と施工管理方法（仮題）」

活動： 技術委員会は、2～3つのワーキンググループ（WG）による構成とし、1つのWGは、全国圧入協会（JPA）との合同WGとする予定。（1. C), d. 参照）

### B) 圧入工法の世界的な普及活動

工法普及に有効な技術書などの発刊を継続。

#### a. 「圧入工法設計・施工指針 -2019年度版-」（日本語版）

2015年の初版発刊から3年半が経過、その間に「道路橋示方書」（2017年）や「港湾の施設の技術上の基準」（2018年）の改定、また機械等の開発の進行に伴う内容改定が必要と判断。2019年3月5日に編集委員会を発足し、内容改定作業を開始。2019年10月頃の発刊を目標として活動を継続中。

#### b. "Press-in retaining structures: a handbook (Second edition)"（英語版）

日本語版の指針改定に合わせて、英語版の改定も開始予定。2019年度に編集委員会を発足、2019年度中の発刊を目標。

## c. 圧入ハンドブックの多言語化

### (a) 中国語版

2018年10月、中国での技術専門書発刊最大手の「中国建築工業出版社」と出版契約を締結。内容監修は国立清華大学の張建民教授（中国工程院，院士）に依頼、2019年8月の発刊を予定。

### (b) フランス語版

2019年度での「Press-in retaining structures: a handbook (Second edition)」（英語版）の改定後、フランス語版の翻訳を開始。初版（First edition）を元に約70ページ分のテスト翻訳と内容監修は完了。

### (c) ロシア語版

フランス語版と並行して「Press-in retaining structures: a handbook (Second edition)」（英語版）の改定後、翻訳を開始する予定。

### (d) その他の言語

市場の動向を勘案した工法の普及計画を検討し、前記以外の多言語化を検討する。

## d. その他の技術書籍

### (a) Case history volume -1（圧入工法適用事例集）

初版は現在、研究委員会にて編集中、2019年度に発刊予定。

### (b) 圧入入門書

数名のIPA理事と会員（有志）で構成するグループにて“New horizon of piling”（仮題）という英名の書籍を編集中。2019年度中にCRC Press等の海外大手出版社による発刊を予定。

## e. 海外圧入セミナー（Seminars on the Press-in Technology）

### (a) 中国

中国での外為取引規制などを考慮し、IPA主催ではなく他団体・組織主催の会議やセミナーの一環としての開催を計画。中国の法人会員や他の組織の協力を得て開催準備を推進中。第一回のセミナーは2019年10月もしくは11月頃の開催を目標として準備中。

### (b) 東南アジア諸国（ASEAN諸国）

過去に開催実績のある5カ国（シンガポール，マレーシア，タイ，フィリピン，ベトナム）での2回目、加えて台湾でのセミナー開催を計画。

### (c) その他の国

海外の地域拠点事務所所在地の候補地でのセミナー開催の計画立案を、各地域の副会長と地域担当会員の協力のもとに推進。

## C) 表彰制度

2018年度に表彰委員会によって以下5部門の表彰部門と制度が制定され、2018年度の期末に全会員に対し、各部門への応募を要請。

1. 傑出した建設プロジェクトの表彰 (Outstanding Project Award)
2. 革新的な技術開発に対する表彰 (Innovative Technology Award)
3. 顕著な研究成果に対する表彰 (Distinguished Research Award)
4. 多年にわたる貢献に対する顕彰 (Life-long Contribution Award)
5. ICPE優秀論文の表彰 (The ICPE best paper Award)

部門4及び5の表彰は、ICPE2018において受賞者に授与。部門1～3は、2018年1月10日付の案内で応募を奨励。表彰委員会での審査を経て2019年6月に受賞者を決定、2019年度に開かれるIPA主催のイベントにて授賞予定。

#### D) 図書館機能 (蔵書)

学術研究の支援とIPA会員への貸出を目的として、2018年度より図書館機能の整備を推進中。2018年度に約300冊の技術書籍を配備済み、2019年度には更に約300冊を追加する計画。2019年6月を目途に、会員向けの貸出サービスの運用を開始予定。

### 3. 人材育成による社会貢献

#### A) 若手研究者・エンジニアが参画している技術委員会の研究活動を通じた、継続的な研究と教育プログラムの実施

技術委員会TC4 (2. A), c 参照) は2～3組のワーキンググループにより構成し、約6～7名の若手研究者が参画。学術団体や若手エンジニアに対する圧入工法の普及のため、2019年10月頃にTC4の主催によるシンポジウムをタイで開催する予定。

#### B) 圧入工法に関する技術書・論文などの編集活動への若手研究者・エンジニアの参画

「圧入設計・施工指針 (日本語版)」「Press-in retaining structures: a handbook」(英語版)「Case History volume (圧入工法適用事例集)」「圧入入門書」などの書籍編集活動を、10名を超える若手研究者やエンジニアの直接参画によって遂行する。

#### C) 世界中の若手研究者・エンジニアの教育のための国際ネットワークの構築

中国やその他の国でセミナーを開催することで、若手研究者・エンジニアの交流促進の場として活用する。

#### D) 実装可能技術のための研究活動を全国圧入協会 (JPA) との合同で推進

全国圧入協会 (JPA) の実務者がIPA活動に参画するための有効な方法として、TC4の研究活動にてJPAとの合同活動を推進し、特に若手実務者の参画を進める。

### 4. 機能的な組織運営

#### A) IPA活動活性化に向けた新理事や若手技術者の登用

IPA活動の多様化に向け、地域性を勘案した理事の登用促進と共に、推薦委員会により「世代交代」の観点から理事・監事の候補者を検討する。

#### B) IPAの地域拠点体制確立によるグローバル展開

米国、オランダ、シンガポール、日本の各拠点を主体としたセミナー開催が可能とすべく各拠点の活動を本格化する。

各地域拠点の担当メンバーは、各地域での事務局としての活動をサポートする役割を担う。

## C) 経済的自立が可能な学会運営の検討

経済的自立による学会運営を継続目標とし、2019年度は以下の各活動を独立採算による開催を目標とする。

- ・ 圧入工学セミナー (2019年9月予定ー東京, 日本)
- ・ 中国セミナー (2回の開催を計画)
- ・ 技術委員会 (TC4) シンポジウム (2019年10月予定ータイ)

## 5. 運営の仕組み構築

### A) 会員向けサービスの向上

#### a. 会員向けサービス

- (a) 技術委員会を含む研究活動を通じた国際ネットワークへの参加
- (b) 有益な情報源となるIPA Newsletterの定期受信
- (c) 学会ウェブサイトを通じての論文閲覧
- (d) 特別割引適用による、国際会議、セミナー、シンポジウムなどへの参加
- (e) 国際会議 (ICPE) などへの論文提出
- (f) 会員専用サイトの利用 (会議やセミナーへの参加登録、書籍購入、オンライン支払い)

#### b. 学会ウェブサイト及び会員サイトのコンテンツ拡充やサービス内容向上は、2019年度も継続的に実施

### B) 定款、付属定款、内規の改定

IPAの運営にあたり、定款 (Constitution) ・付属定款 (By-laws) ・規則 (Regulations) の三層の規定の改定が必要。総務委員会 (Administration Committee) は運営委員会 (Steering Committee) と協力して2019年度に現行の既定の見直しを進める。

## 6. その他の事項

- A) IPA 総会 : 学会ウェブサイト上にて2019年6月に開催
- B) IPA 理事会 : 2019年7月東京で開催予定
- C) 運営委員会 : 年3回の開催
- D) 常設委員会 : 下記5常設委員会は各委員長によって招集され、2019年度活動計画に基づいて計画を遂行。  
研究委員会 / 表彰委員会 / 広報委員会 / 事業委員会 / 総務委員会

### E) 会員勧誘 :

国際会議、セミナー及び技術委員会のシンポジウムを通じて、個人・法人会員数の増加に向けた取り組みを継続。

List of Activity Plan for the fiscal year 2019

Reference

Objectives	Actions / Tactics	Descriptions	Details	
1. Forming and developing the international network	A) IPA Newsletter	Quarterly publication (4 issues of Vol.4, No.2~Vol.5, No.1 to be issued)	Bound version #3 is planned to be issued in Feb. 2020 (Vol.4, No.1~Vol.4, No.4)	
	B) Periodic convening of the Press-in seminars, symposiums and conferences	a. 11th Press-in Engineering Seminar		The 11th Press-in Engineering Seminar is being planned with a different scheme from the previous one and to be held in Tokyo in Sep 2019.
		b. TC Symposiums in various countries		TC3 symposium is planned to be held in Bangkok in Oct. or Nov. 2019
		c. International Conference on Press-in Engineering (ICPE2021)		2nd ICPE is planned to be held in 2021 and the Organizing Committee will be organized in July 2019, then preparation activities will be commenced.
	C) Periodic interaction with other organizations in various countries and expanding IPA network	a. South America (Brazil)		Initial relationship with Brazilian Geotechnical Society, universities, steel manufacturers and general contractors was established in the fiscal year 2018. Strengthening further relationship through the regional office in USA.
		b. China		IPA President was invited for 2 international conferences at Hangzhou and Guangzhou in China and conducted lectures in 2018. IPA plans to further expand a network through the China Civil Engineering Society and other organizations in order to organize IPA Seminars on Press-in Technology in China.
		c. Japan IPA-JPA collaboration		IPA Research committee held several preparatory meetings with JPA in 2018 and an establishment of the joint technical meeting will be organized in the fiscal year 2019 to commence joint research activities.
		d. Facilitate interaction activities through IPA regional office as described in 4. B)		Encourage Vice Presidents and corresponding members in each region to facilitate interaction activities
	2. Contribution to society by progressing researches and practices	A) Enhancement of research activities by various Technical Committees	a. TC-1 "Application of cantilever type steel tubular pile wall embedded to stiff ground"	TC-1 commenced in 2017 for 3 years research program and 2019 will be a final period to conclude activity. Interim report for 2017 and 2018 will be submitted to Research Committee.
			b. TC-3 "Expansion of Applicability and Assessment of Seismic Performance of PFS Method"	TC-3 commenced in 2017 for 3 years research program and 2019 will be a final period to conclude it. Interim report for 2017 and 2018 will be submitted to Research Committee.
c. TC-4 "Vertical performance and construction management of sheet piles installed by the Press-in Method and tubular piles installed by Rotary Cutting Press-in Method" (Tentative)			TC-4 will be organized in 2019 with 2 or 3 working groups (WG)	
B) Global dissemination of the Press-in Method utilizing the Press-in Handbook		a. "Design and construction manual of the Press-in Method, 2019 version" (in Japanese)	Editorial Committee was organized on 5 March 2019 and making revisions has been commenced. The manual is planned to be published in Oct 2019.	
		b. "Press-in retaining structures: a handbook (Second edition 2019)" (in English)	Editorial Committee will be organized and the handbook is planned to be completed in early part of 2020.	
		c. Multilingualization of the Handbook		Publishing contract was executed with China Architecture and Building Press – CABP in October 2018 for the Chinese version handbook. Publication is planned in the late August 2019.
				Following completion of "Second edition of the handbook in English" which is scheduled to be completed in February 2020, a translation to French will be commenced.
				Following completion of "Second edition of the handbook in English" which is scheduled to be completed in February 2020, a translation to Russian will be commenced, simultaneously with French version.
			Upon completion of the second edition of the Handbook in English, multilingualization to other languages will be considered.	
		d. The technological books	(a) Case history volume -1 has currently been edited by Research committee and will be published in May 2019. (b) The introductory book on Press-in Technology named "New horizon of piling" (Tentative) is currently under an editing process by the voluntarily contributed group among IPA Directors and members. The publication will be delegated to a publishing company such as CRC press/Balkema.	
e. Seminars on the Press-in Technology	(a) China Collaborative seminar with other conference or seminar to be planned due to foreign currency restrictions. Detailed coordination has been conducted with the representatives in China. The first seminar is aimed to be held in October or November 2019. (b) ASEAN countries Second round of seminars are to be planned in ASEAN countries, includes Taiwan. (c) Other countries Seminar for the regions where IPA regional offices are established will be considered subject to further coordination with corresponding member and Vice President in each region.			
C) Awarding function	Award Committee established the program and made an announcement in the fiscal year 2018. Awards program consists of the following five categories: 1. Outstanding Project Award 2. Innovative Technology Award 3. Distinguished Research Award 4. Life-long Contribution Award 5. The ICPE best paper award	No. 4. and 5. awards were given to the winners in ICPE2018 and the other three (3) Awards were called for nomination on 10th January 2018. Award Committee will evaluate each nomination, then the winners are scheduled to be announced in June 2019 and the commendation will be given at one of this year's IPA event with further notification.		
D) IPA Library (collection of books)	IPA Library system is organized to support academic research works and a Books lending service system for IPA members is currently being developed.	Approximately 300 books were furnished as the first phase in the fiscal year 2018 and the further 300 books are planned to be furnished in the fiscal year 2019. A Books lending service system for IPA members is being developed and planned to be available in June 2019.		

**List of Activity Plan for the fiscal year 2019**

*Reference*

Objectives	Actions / Tactics	Descriptions	Details
<b>3. Contribution to society with human resource development</b>	A) Conducting consecutive research and educational programs through Technical Committees' activities with participation of young researchers and engineers	TC-4 consists of 2 or 3 working groups and invite at least 6 to 7 of young researchers' participation	TC-4 organizes the symposium to be held in October 2019 at the university in Thailand and aims for dissemination of Press-in technology to academia and young generation.
	B) Soliciting young researchers and engineer's participation in the editing process of technological books and papers with respect to the Press-in technology	Over ten (10) young researchers and engineers are invited to participate in the editing process of Press-in Manual in Japanese, Press-in Handbook in English, Case History volume-1 and Press-in introductory book.	
	C) Forming international network for upbringing of young researchers and engineers throughout the world.	Taking the opportunity of seminars on Press-in technology to be held in China and other countries, facilitate interactions among young researchers and engineers	
	D) Driving collaborative activities with the Japan Press-in Association (JPA) for viable study or research work.	Further discussions will be held in effective ways for practical engineers in JPA to participate in IPA activities	Develop collaborative activity with Japan Press-in Association (JPA) through TC-4 and aim for participation of young practitioner.
<b>4. Functional operation</b>	A) Recruitment of Directors to enhance IPA activities as well as upbringing of young generation in the organization.	Further development to recruit IPA Directors with area consideration for diversification of IPA activities, and the nomination committee will prepare the draft short list for the directors and auditors for each term with the view of "Alternation of generations."	
	B) Aiming for the globalization through enhancement of the possible establishment of IPA regional offices	Activate activities of regional offices in USA, Holland, Singapore and Japan, especially for organizing Seminar on the Press-in technology in each region.	Corresponding members in each regional office shall take a constructive role to support the Secretariat functions.
	C) Aiming for economic self-sustainability operation	Keep applying the economic self-sustainability principle to events to be held this year	Planned seminars/symposiums: • Press-in Engineering Seminar (September 2019) • Seminar on Press-in technology in China • TC Symposium in Thailand (October 2019)
<b>5. Organizational operation</b>	A) Better services for IPA members	Privileges: • participation to the global network through IPA activities include Technical committees for research works • receiving IPA newsletter periodically with valuable information • browsing of the research papers through IPA website • admission and registration to Conferences, Seminars, Symposiums with special rate • facilitation of IPA website and membership site	Continued implementation and development to the IPA website will be conducted for better contents include IPA membership site
	B) Revisions to Constitution / By-laws / Regulations	Three (3) level of rules need to be revised to properly administrate IPA management.	Administration committee will conduct detailed study on the current rules and develop proposed revisions together with Steering Committee.
<b>6. Others</b>	A) General Assembly	To be held in June 2019 via website	
	B) Board of Directors meeting(s)	To be held in July 2019 in Tokyo	
	C) Steering Committee	To be held 3 times per year	
	D) Standing Committee	Five Standing Committees will be held upon Chair's call to execute the activity plan 2019 based on the "terms of reference" for each Committee.	Standing Committee: 1. Research Committee 2. Award Committee 3. Publicity Committee 4. Development Committee 5. Administration Committee
	E) Membership	Further development to solicit membership is to be made to increase individual and corporate membership through conferences, seminars, symposium and TC activities.	

## 第4号議案: 2019年度予算

### 予算書 2019年度 (2019.4.1 - 2020.3.31)

(単位: 円)

項目	2018年度収支	2019年度予算	備考
<b>I 事業活動収支の部</b>			
<b>1 事業活動収入の部</b>			
① 会費収入			
個人正会員年会費	6,050,000	6,500,000	619名(2018年度実績)
法人会員年会費	7,739,500	7,300,000	法人会員 54社(2018年度実績)
② 寄付金収入			
寄付金	16,000,000	16,000,000	
③ その他収入			
研究受託費	0	4,000,000	研究委託費
書籍販売		7,000,000	
雑収入	1,663,532	0	
<b>事業活動収入計</b>	<b>31,453,032</b>	<b>40,800,000</b>	
<b>2 事業活動支出の部</b>			
① 会議・セミナー関係			
第1回 国際会議(ICPE2018開催) IPA諸費用	479,537	0	
第2回 国際会議(ICPE2021開催予定) 事前準備	0	300,000	IPA準備費用(*ICPEは独立採算制)
第11回 圧入工学セミナー(2019)	0	200,000	開催準備費用(*セミナーは独立採算制)
海外セミナー(Handbook) 開催準備費用	2,197,791	800,000	中国、インドネシア、台湾等(予定)(*独立採算制)
② 出版関係			
圧入工法設計・施工指針 改訂 委員会・印刷費	14,100	3,500,000	査読費,交通費,印刷費等
Press-in Handbook(英) 増刷費用	547,992	0	
Press-in Handbook(英) 改訂 委員会・印刷費	0	2,800,000	査読費,翻訳費
Press-in Handbook(中) 翻訳監修費用	1,393,752	0	(監修:清華大)
Press-in Handbook(中) 監修・出版費	0	2,800,000	出版:中国建築工業社
Press-in Handbook(他) 翻訳・監修	0	2,200,000	仏語・露語等(翻訳)
Case History Volume 印刷費	0	2,000,000	2019年6月一発刊予定
IPA Newsletter(合冊版 No.3) 印刷費	1,099,192	1,000,000	2020年2月一発刊予定
その他(圧入入門書) 出版経費	0	200,000	2019年10月一発刊予定(外部委託*)
③ 研究関連			
理事会・運営委員会活動費	1,732,132	2,200,000	理事交通費等
研究委員会(技術委員会)活動費	0	4,000,000	TC1, TC3, TC4(2~3 WG)
表彰関係	0	100,000	表彰盾・賞状等(3部門)
図書館機能	2,907,461	3,000,000	第2期(2019年度)蔵書購入
その他(調査・他学会参加費)	410,311	300,000	
④ 管理関連			
ウェブサイト管理費	3,256,920	1,200,000	サイト維持管理費・サーバー管理費
会員管理	0	100,000	会員証発行等
印刷費用(書籍関連除く)	0	300,000	学会案内等
郵送費(国内外)	230,939	350,000	
通信費	118,281	150,000	電話代
理事報酬	10,667,570	10,650,000	
賃借料	3,339,463	3,400,000	事務所家賃・コピ機等
契約外注費	2,339,923	2,300,000	税理士費用などの外注費
支払手数料	382,567	400,000	銀行手数料等
事務用品費	742,929	350,000	
雑費	735,396	200,000	
その他(予備費)	0	300,000	
<b>事業活動支出計</b>	<b>32,596,256</b>	<b>45,100,000</b>	
<b>事業活動収支差額</b>	<b>(1,143,224)</b>	<b>(4,300,000)</b>	
<b>II 投資活動収支の部</b>			
<b>1 投資活動収入</b>			
① 固定資産売却収入			
定期預金払戻	0	0	
<b>投資活動収入計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>2 投資活動支出</b>			
① 固定資産取得支出			
定期預金取得	0	0	
<b>投資活動支出計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>投資活動収支差額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>III その他</b>			
営業外収益等	0	0	
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>10,493,608</b>	<b>6,418,730</b>	
<b>当期収支差額</b>	<b>(1,143,224)</b>	<b>(4,300,000)</b>	
<b>過年度収支修正</b>	<b>(2,931,654)</b>		
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>6,418,730</b>	<b>2,118,730</b>	

## 第 5 号議案：理事及び監事の選任

指名委員会<sup>(註1)</sup> は定款 第 4 章 12 条に基づき、以下の 16 名を 2019 年度－2020 年度の理事及び監事として推薦する。※改選、新任の順に掲載。

### 理事（改選）2019 年度－2020 年度:

氏名	組織	国／地域
Michael Doubrovsky	オデッサ国立海事大学 教授	ウクライナ
Kenneth Gavin	デルフト工科大学 教授	オランダ
Stuart Haigh	ケンブリッジ大学 上級講師	イギリス
石原 行博	(株)技研製作所 課長	日本
神田 政幸	(公財) 鉄道総合技術研究所 構造物技術研究部長	日本
Andrew McNamara	シティー大学ロンドン 上級講師	イギリス
大谷 順	熊本大学 教授	日本
竹村 次朗	東京工業大学 准教授	日本
Nor Azizi Bin Yusoff	ツン・フセイン・オン・マレーシア大学 UTHM ホールディング 代表取締役	マレーシア

(英語姓のアルファベット順に掲載)

### 監事（改選）2019 年度－2020 年度:

氏名	組織	国／地域
藤崎 義久	(株)技研製作所 執行役員	日本

## 理事候補者（新任）2019 年度－2020 年度:

氏名	所属	国／地域
Alexis Philip A. Acacio	フィリピン大学・デイリマン校 教授	フィリピン
Mounir Bouassida	チュニス・エルマナール大学 教授	チュニジア
Marcos Massao Futai	サンパウロ大学 教授	ブラジル
見波 潔	村本建設株式会社 常務執行役員	日本
鈴木 比呂子	千葉工業大学 創造工学部 教授	日本

## 監事候補者（新任）2019 年度－2020 年度:

氏名	所属	国／地域
王 桂萱	大連大学 教授	中国

※上記の新任理事及び監事については、別添資料に略歴を掲載。

注: 指名委員会<sup>(註1)</sup> は 付属定款の第 4 項にて規定。

備考: 第 5 号議案は 16 名の一括承認形式です。

コメントがある場合は会員サイトの投票ページにあるコメント欄に記入願います。

## 理事候補者（新任）1：

氏名: Dr. Alexis Philip A. Acacio /  
アレクシス・フィリップ・A・アカシオ  
現職: 教授 / フィリピン大学・ディリマン校  
理事長 / フィリピン地盤工学会  
土木・経営コンサルタント  
国籍: フィリピン共和国

## 学歴

1984 フィリピン大学工学部土木工学科卒業  
1988 東京大学大学院土木工学修士課程修了  
1997 東京大学大学院土木工学博士課程修了  
2002 アジア経営大学企業家専攻修士課程修了（成績優秀者）  
2010 ハーバード・ビジネス・スクール  
Owner President Management Program\*修了  
\*経営者向けのマネジメント課程

## 職務経歴

1989 – 現在 フィリピン大学 教授  
2018 – 現在 フィリピン地盤工学会 理事長  
2010 – 2014 フィリピン大学土木工学研究所 所長  
1998 – 現在 AMH Philippines Inc. パートナー  
1992 – 現在 Building Dreams Inc. パートナー  
1989 – 現在 Geotechnics Philippines, Inc. 取締役

## 理事候補者（新任）2：

氏名: Dr. Mounir Bouassida / モニエール・ブアシーダ  
現職: 教授 / チュニス・エルマナール大学  
国籍: チュニジア

### 学歴

1996 チュニス・エルマナール大学土木工学 博士号取得  
(Doctorate of Sciences)  
1986 チュニス・エルマナール大学土木工学博士課程修了  
(PhD in Civil Engineering)  
1983 チュニス・エルマナール大学土木工学修士課程修了  
1980 チュニス・エルマナール大学土木工学科卒業

### 研究・受賞等

2006 フルブライト奨学生 (Council International Exchange Scholars)  
2006 Shamsher Prakash (2006 年度)賞\* 受賞  
\*地盤工学分野の優秀実務者に対する賞

### 職務経歴

2017 - 現在 国際地盤工学会 (ISSMGE) 理事  
2005 - 2009 国際地盤工学会 (ISSMGE) アフリカ地域 副会長  
2003 - 2007 会長 / チュニジア土質力学協会 (ATMS)  
1996 - 2003 事務局長 / チュニジア土質力学協会 (ATMS)  
2014 - 現在 代表 / 地盤工学研究所  
2004 - 現在 教授 / チュニス国立工学研究科, チュニス・エルマナール大学  
1999 - 2004 准教授 / チュニス国立工学研究科, チュニス・エルマナール大学  
1986 - 1999 助教授 / チュニス国立工学研究科, チュニス・エルマナール大学  
1982 - 1986 助手 / チュニス国立工学研究科, チュニス・エルマナール大学  
1980 - 1982 技術エンジニア / チュニス国立工学研究科,  
チュニス・エルマナール大学

## 理事候補者（新任）3：

氏名: Dr. Marcos Massao Futai / マルコス・マッサオ・フタイ  
現職: 教授  
サンパウロ大学  
国籍: ブラジル

### 学歴

1995 マト・グロッソ連邦大学土木工学科卒業  
1997 リオデジャネイロ連邦大学土木工学修士課程修了  
2002 リオデジャネイロ連邦大学土木工学博士課程修了

### 研究受賞等

2005 最優秀論文賞（斜面安定性に関する会議）  
2002 - 2004 コスタ・ニュネス賞（ブラジル地盤工学会）  
2003, 2008 最優秀成績賞（サンパウロ大学）

### 職務経歴

2010 - 現在 教授  
サンパウロ大学  
2009 - 現在 理事  
ブラジル地盤工学会  
2011 - 2012 理事長  
ブラジル地盤工学会 サンパウロ支部  
2009 - 2010 事務総長  
ブラジル地盤工学会 サンパウロ支部  
2007 - 2008 事務局長  
ブラジル地盤工学会 サンパウロ支部

## 理事候補者（新任）4：

氏名： 見波 潔（みなみ きよし）  
現職： 常務執行役員  
村本建設株式会社  
国籍： 日本

### 学歴

1977 京都大学工学部土木工学科卒業  
1979 京都大学大学院工学研究科修士課程修了（土木工学専攻）

### 職務経歴

2016 – 現在 村本建設株式会社 常務執行役員  
2016 – 現在 一般社団法人 日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所 顧問  
2013 – 2016 一般社団法人 日本建設機械施工協会 業務執行理事  
2008 – 2016 社団法人 日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所 所長  
2006 – 2008 独立行政法人 土木研究所 技術推進本部長  
2003 – 2005 高知県土木部 部長  
2001 – 2003 国土交通省 道路局企画課道路防災対策室 室長  
1998 – 2001 豊田市 助役  
1996 – 1998 財団法人 国土開発技術研究センター 研究第二部 部長  
1994 – 1996 建設省 中部地方建設局 事務所長  
1991 – 1994 建設省 東北地方建設局 事務所長  
1988 – 1991 建設省 東北地方建設局 道路部道路計画課長  
1979 – 1988 建設省 土木研究所 機械施工部施工研究室 研究員

## 理事候補者（新任）5：

氏名： 鈴木 比呂子（すずき ひろこ）  
現職： 教授  
千葉工業大学 創造工学部建築学科 教授  
国籍： 日本

### 学歴

2000 東京工業大学工学部建築学科卒業  
2002 東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了  
2005 東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻博士課程修了

### 職務経歴

2018 – 現在 千葉工業大学創造工学部 教授  
2013 – 2018 千葉工業大学工学部 准教授  
2007 – 2013 東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻 助教  
2005 – 2007 東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻 助手  
2003 – 2005 日本学術振興会特別研究員（D C 2）

## 監事候補者（新任）1：

氏名: 王 桂萱 (Dr. Wang Guixuan)  
現職: 教授  
大連大学  
国籍: 中国

### 学歴

1983 大連理工大学土木工学部海洋土木工学科卒業  
1987 大連理工大学土木工学部地質工学修士課程修了  
1994 東京工業大学土木工学科客員研究員  
1998 東京工業大学土木工学博士課程修了

### 職務経歴

2003 – 現在 学部長・特別教授  
土木工学研究開発センター  
大連大学、中国  
2002 – 2003 研究主任・研究委員長  
研究センター（建設マネジメント・維持管理工学）  
山口大学、日本  
2016 – 2017 部長  
東電設計株式会社

保有資格等 大連大学特別教授